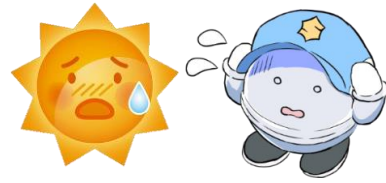


2024年7月4日の中日新聞に  
掲載されました。



小幡社長(左)が見守る中、ウォーターサーバーで水をくむ児童ら。幸田町六栗の鈴木化学工業所で



鈴木化学工業所

暑い通学路 水を飲んで休んでね 幸田

各地で今年一番の暑さとなった3日、幸田町六栗の鈴木化学工業所では、下校途中の小学生たちが正門前に用意されたウォーターサーバーを利用し、喉を潤す姿が見られた。

同社前は同町豊坂小学校の通学路となっており、子どもたちの熱中症対策に役立てようと、2020年から夏季限定で給水場を開設。昨夏の猛暑を踏まえ、今年は1週間ほど早く6月下旬に始めた。児童が下校する平日午後3～4時ごろに社員が当番制でサーバー1台を運び出し、安全な利用を見守っている。

学校から2キロ近く歩いてきた児童らは、紙コップに水をくんで飲むと、ほっとした表情に。小幡和史社長(51)は「始めた頃は警戒感もあったが、今では頼ってくれる子が多い」と目を細める。横の水道で顔を洗ったり、タオルをぬらしたりする子もいるという。

サーバーは小学校の夏休み期間や悪天候の日を除いて、9月末まで設置する予定。(高木健吾)